クラス	Q304	担当教員	杉浦　祐子・小平　英志
テーマ	パーソナリティと適応、精神的健康		
著書・論文 研究課題等	杉浦祐子 (2012). 日本における反映的自己研究の現状と課題　名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（心理発達科学），*58*, 129-135 杉浦祐子 (2014).反映的自己が自己概念に及ぼす影響－重要な他者の機能に着目して－　パーソナリティ研究，*22*, 252 - 261 Sugimura, Niwa, Takahashi, Sugiura, Jinno, and Crocetti (2015). Cultural self-construction and identity formation in emerging adulthood: a study on Japanese university students and workers. *Journal of Youth Studies*, *18*, 1326-1346		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：性格、人格、パーソナリティ、適応、精神的健康、青年期

ゼミの目的　元気そうに日々を送っている人でも、上手くいかず悩んだり、苦しんだりすることはたくさんあります。まさに「人生は綱渡り」であり、風が吹き荒む中、我々はバランスを取りながら、何とか綱を渡って生きているわけです。では、人はそれぞれどのような方法で、そのバランスを取ろうとするのでしょうか。

環境へと何とか適応しようとする様子には個人差があり、その独特の調整の仕方を決めているのがパーソナリティ（人格、性格）です。パーソナリティは、人を生きやすくし、また生きにくくもします。ゼミでは、「適応」と「精神的健康」の２つをキーワードとして掲げ、現代において、人が外的・内的環境に適応し生きていく上で必要なものは何なのかを、パーソナリティの視点から検討を行います。抽象度・自由度の高いテーマですので、まずはひとりひとりの身近な出来事や事例、素朴な疑問から出発し、最終的には学術的研究の形にしていきます。これらのプロセスを経験することで、自分が疑問に思ったことを、心理学的手法を用いて明らかにする手続きを学んでいきます。

授業計画　３年次には、まずは議論慣れをするために、①ディベートのトレーニングから始めます。その後、②学術論文の読み方を学び、心理学の研究のスタイルや論の展開、証拠の示し方（統計的検定）などを理解した上で、論文の内容を題材に議論していきます。後半には、③卒業論文作成に向けて、各自レビュー（論文収集と整理）を進め、予備調査を実施していきます。４年次にはそれぞれのテーマに従って個人研究を進め、ゼミでの発表を重ねることで最終的に卒業論文としてまとめていきます。

卒業研究の形式　卒業研究では、実証的な方法（調査法・観察法・面接法・実験法、ケース・スタディ等）を用いた研究論文を作成します。共同研究は原則として行わない予定です。

※2017 年度の子ども発達学専門演習Ⅱから、担当が小平英志に変更になる予定です。

担当教員からのメッセージ

・ゼミのスローガンは「**がっつり、どっぷり心理学**」です。心理学の証明の方法や説得の仕方は、卒業後にどのような道に進む上でも役立つはずですので、しっかりと自分のものにしていきましょう。

・人の心理について深く考えたり、友達と真面目に議論することができるゼミをめざしています。知的な発想や発見を生む雰囲気を全員で作っていきましょう。心について議論したい人、大歓迎です。

・３年生と４年生で積極的に交流をしていく予定です。先輩・後輩達の関心や研究内容を知ることで、心理学的研究の知識を深めていって欲しいと思います。